

第二部 内定者の国家公務員採用一般職試験 体験記

第二部では、一般職の内定者 3 名による国家公務員一般職試験、勉強方法をお伝えします。3 人とも 26 年度の試験を受けていたため、最新の情報とまではいきませんが、わかばかりでも試験対策の参考にいただければ幸いです。

- ※ 本紙に記載している試験方法や内容は、H27 年度国家公務員採用試験について述べたものであり、H28 年度以降の試験とは試験時期や英語試験の活用などの点で異なる可能性があります。また、勉強方法や選択問題のオススメ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりかねますことをご了承下さい。あくまでも、本紙は受験者様の参考程度としてご覧いただければ幸いです。

－ 簡単な国家公務員一般職試験の内容の説明 －

【一次試験（教養+専門）】

全てマーク式の筆記試験です。教養試験では選択問題はなく、専門試験では複数の分野から 4～6 科目選択し、必要数の問題を回答します。この部分は総合職と形式としては同じになります。この試験と同日に政策論文も行うので、長丁場の体力勝負はここから始まっているように思います。一次試験に合格後人事院面接へと進みます。大体の問題集にも記載されていますが、一般職の場合、専門試験は学校の試験や入試が選択式になっているようなイメージです。

【政策論文】

選択した専門分野と社会的な問題を織り交ぜて自分の意見を論ずる記述問題です。先述の通り、一次試験と同日に組み込まれていましたので、集中力を長く維持することこそが大事かと思います。

【人事院面接】

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。

面接時間はおよそ 10～20 分程度で、面接官は 3 人（人事院の方と各省庁の現役の方らしいですが真相は不明）です。ここは総合職とあまり違いはないと思われます。

PN：きりんとらくだ (電気・電子・情報区分/大卒程度)

1. 勉強量について

(勉強開始時期、勉強法、勉強量等)

公務員試験の1ヶ月前から問題集を図書館で借りて勉強を始めました。公務員試験の過去問は5年分ほど正確に回答を作りました。

【専門と教養、論文のバランスは】

教養試験の問題が研究よりも面白かったので、教養メインで勉強しました。

専門は過去問から傾向がつかめましたので、教養ほど時間はかかりませんでした。論文は特に対策しませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

市販の問題集、過去問を解きました。推論は、手こずったのでそれ専用の問題集を買って解いていました。時事問題はその類の本を立ち読みした程度です。

【専門試験（選択科目）】

過去問の解答作成をメインにしました。今考えれば専門に注力した方が賢かったのになあって思っています。

【論文】

そのころ友人とディベートのテーマを話すことがよくあったので、考えるという習慣が活きたかもしれません。

【人事院面接】

人事院面接は最も力を入れました。面接シートも1か月近く前から3,4日ごとに書き直して精査していきました。僕は面接シートに書いてあることはあまり聞かれず、この他には?という質問が多くありました。その場で考えて答えたため拙いものになってしまったと思います。

PN：ペー （電気・電子・情報区分/大卒程度）

1. 勉強量について

（勉強開始時期、勉強法、勉強量等）

公務員試験の3,4ヶ月前から問題集を使って独学で勉強を始めました。研究の合間をみでの勉強だったので、勉強量は大して多くないと思います。

【専門と教養、論文のバランスは】

教養の知能分野と専門を重点的に勉強しました。

問題を解くスピードが遅かったなので、教養の知能分野の問題は数をこなしました。知識分野は参考書を一読した程度です。論文は特に対策しませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

市販の問題集や過去問を解きました。時事問題は対策の仕様がなないので、新聞やニュースで見たことが問題として出たらラッキーぐらいの気持ちで大丈夫だと思います。それよりも、知能分野を確実に解くことが重要だと思います。

【専門試験（選択科目）】

過去問と大学での演習問題を解き直しました。

【論文】

特に対策していませんが、ニュースになったことに対して自分がどういう考えなのか、どういう対策をとればより良くなるかを日々考えてみるといいかもしれません。

【人事院面接】

基本的に面接シートに記入した内容からしか質問されませんでした。面接シートから想定した質問を考えて対策すれば大丈夫だと思います。

PN：うざりす (物理区分/大卒程度)

1. 勉強量について

(勉強開始時期、勉強法、勉強量等)

試験1年前から意識し始め、問題集で問題を解きまくりました。間違えたところは参考集で詳しく勉強し直しました。

【専門と教養、論文のバランスは】

とりあえず専門を中心に勉強しました。教養は理系科目の部分は絶対に落とさないように注意しました。論文は教職課程の授業でもらった資料を参考にしました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

文系科目は自信が無かったのであまり時間を使いませんでした。その分、理系科目と推論などの問題をしっかり考えるようにしました。

【専門試験（選択科目）】

私は物理を選択したので力学や電磁気の問題が多くを占めていました。また熱力学や光学の分野もあるので、自分の得意なものを多く選択すると思いました。

【論文】

「物理の基本しか学んでいない大学生に対して、物理法則を1つ考え、実際の現象に当てはまることが理解できるような実験と法則を説明せよ」という内容でした。丁度、教育実習後であったので、担当していた自由落下の法則について説明しました。

【人事院面接】

基本は二次試験のときに書くシートに記入したことに沿って質問されました。経験談を中心に書くとスムーズに面接が進むと思います。